

交流拠点 郡中いつぶく亭

「ちよつと寄り道していかんかな」 女性の余暇パワーをまちの元気に ―商店街の交流拠点・郡中いつぶく亭―



いつぶく亭のボランティアは20人。取材時には5人のメンバーが集合(左から谷岡さん、水口さん、植岡さん、谷本さん、黒田さん)

よいとこ郡中商店街MAP▶

魚屋、肉屋など生鮮から酒屋、衣料品、呉服店まで約100の商店が点在。お年寄りが安心して買い物に出かけることができる優しいまちづくりに取り組んでいる



「商店街は人と人をつなぐ場所だからお年寄りが多いわが町にはとても重要。買物がたら四方山話に花を咲かせたり、外に出て趣味を広げる場を創っては」と9年前にオープンしたのが「いつぶく亭」です。

場所は通りの空き店舗を利用、開館時間は平日の10時〜15時。運営スタッフは、伊予市内の女性がボランティアで担当することになりました。

「子育てを終え一段落された方に、空いた時間に協力をと声かけしたのよ」と当初から運営に携わる水口純子さん。現在は60〜70代の約20人が、週1回2時間半からのお手伝いをしています

なっていました。

灘町商店街は江戸時代に郡中港を起点として栄えた歴史ある土地。今も当時の町家が風情ある雰囲気を残しています。

一方で、人通りが年々減少、まちの活性化は大きな課題になっていました。

歩いて買い物しやすい商店街にしたいから

伊予市の灘町商店街に佇む「交流施設・郡中いつぶく亭」。その名の通り、買い物途中にでもぶらりと立ち寄りひと休みできるスペースです。

扉を開けると「どうぞ休んでいって」と笑顔で迎えてくれます。



普段は無理のないよう、週に一度回ってくる当番制。おいでた方にお茶をサービス

交流の場として、趣味の教室“もスタート。講師は、得意技や趣味を持った地域の方がボランティアで担当です。運営委員の黒田ミキエさんも、小物作り講師の一人。

「小物作りは3年前にお店をたたみ空いた時間に自己流で始めた程度。一緒に作って楽しみよるだけ」と言われませんが、一針一針でいねいに仕上げる作品をいっぶく亭に飾ると「私も教えて」とリクエストは絶えません。習字教室、ビーズ教室、歌謡教室：趣味の教室はクチコミで広まり、定員オーバーになる教室も。毎週の講座を楽しみに外出してきてくれる常連のおばちゃんもいます。

二大イベントでも女性パワーを発揮

年中行事として定着した、秋の『いっぶく亭まつり』と春の『雛飾り』もいっぶく亭の女性たちが支えています。



雛飾りの「吊し飾り」などの小物はメンバーのお手製。「手間がかかるんやけど、作るのは楽しいよ」



郡中まちなか情報サイト (<http://www.yoitoko-guncyu.com>) で「いっぶく亭情報」や「いっぶく亭のおばちゃん日記」更新中



いっぶく亭まつり。「趣味の教室」で仕上げた小物など作品販売は毎年大人気



郡中雛飾りは3月3日～4月3日開催。写真はいっぶく亭。伊予銀行郡中支店も雛飾り会場のひとつ

活動のPRにと始まった『いっぶく亭まつり』は商店街を巻き込んだ文化祭。この日は、まちのお年寄りの方の特別招待も。昨年は谷岡和美さんの作詞で、楽しく身体を動かすいっぶく亭の歌と踊りを披露しました。

『郡中雛飾り』では、いっぶく亭や商店街の店舗、住宅など通りの約20数カ所に雛人形の提供を呼びかけ眠っている雛人形の提供を呼びかけたと約750体が集まり、中には130年前の雛飾りも。「何日も前からの飾り付け作業は大変。でも日本の伝統や風習を子どもたちに伝える機会になればと甘酒のふるまいも始めましたよ」と植岡由美子さんが話した。

「おばちゃんのおせっかい」が商店街のつなぎ役

「私にとっては、ここが地域デビューの場」という谷本照美さんは定年になってから、地域と関わり新しいやりがいを見つけたひとり。「ボランティアの仕事を始めたら交流も深まった」「人生経験豊富な方がこれらるのでお話をするのが面白い」「毎週ここに出てくると、元気になる」と、メンバーのみなさんにとってもいっぶく亭でできる時間と場所のようです。

9年間も継続してきた秘訣を「メンバーに共通するのは、好奇心旺盛で、やろうと思ったらすぐにはじめられる行動力。目の前で困っている人がいたら何かできないかというおばちゃんの『おせっかい』精神がいっぶく亭の源かも」と語る水口さん。

「そろそろ自分たちの老後のことを考えないといかんけど、その前に私らがいっぶく亭の後継者を見つけないと」。当分はお忙しいようです。